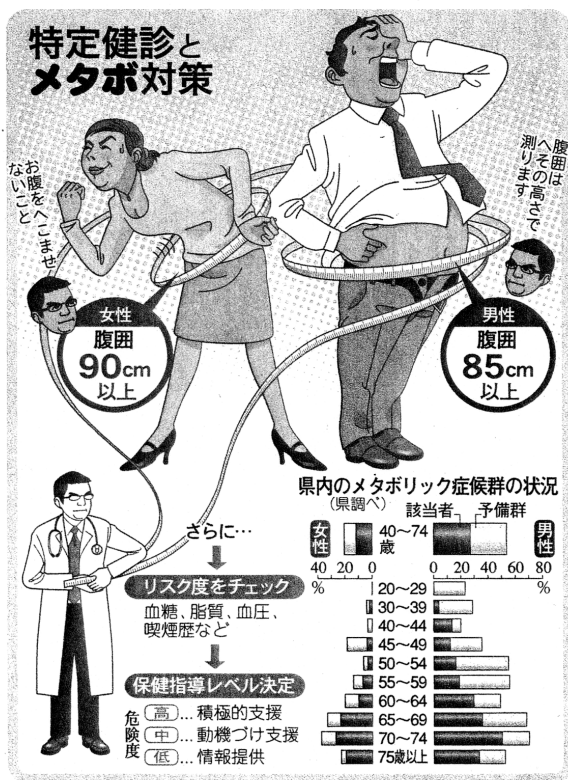


「メタボ」の基準と特定健診

メタボリック症候群 内臓脂肪型肥満に、高血圧、血中の脂質、高血糖が重なった状態を指す疾病概念。放置しておくと、心血管系、代謝系疾患などに進むとされる。国内の8学会による診断基準は、腹囲が男性85cm、女性90cm以上で、さらに



高血圧、高脂質、高血糖のうち2つ以上が当てはまると該当者、1つの場合が予備群としている。本年度の長野県民健康・栄養調査は、「40~74歳のうち、予備群を含めると男性の53.6%、女性の20.4%が該当する」と報告している。

四月から厚生労働省は、「腹囲の数値」などメタボリック症候群をベースにした特定健診を始めます。対象者は四十七歳から七十四歳の中高年。生活習慣病の予備群をいち早く見つけて予防に取り組み、医療費を抑制する狙いです。健保や国保などの保険者に義務づける上、受診率などが達成できないと後期高齢者支援金の負担

金を増やすといった「罰金」を科す力の入れようです。一方、メタボリック症候群の概念、基準になる腹囲の数値などには異論もあります。生活習慣病の予防に役立つ反面、健康と不健康の二分化、健康の義務化にもつながりかねません。特定健診の意義と問題点を論じてもらいました。

信大医学部教授(循環器内科)

池田 宇一さん(54)



健康づくり上手に利用を

メタボリック症候群は、健康になるための動機づけに、腹囲を測るだけで健康やる気を起こさせるものと直結した数値を知ることとして有効と思われる。該当者は、心臓血管疾患「メジャー一本」のリスクが高いことが分か

っている。しかし新しい概念であり、今のところ「メタボリック症候群対策を行なう」というエビデンス(根拠)はない。きいのは日本だけだ。しかし、現段階では、基準値の

と、心臓血管病などの生活習慣病が減るというエビデンス(根拠)はない。きいのは日本だけだ。しかし、現段階では、基準値の

と、心臓血管病などの生活習慣病が減るというエビデンス(根拠)はない。きいのは日本だけだ。しかし、現段階では、基準値の

と、心臓血管病などの生活習慣病が減るというエビデンス(根拠)はない。きいのは日本だけだ。しかし、現段階では、基準値の

「腹囲の数値」が、国際的に日本人を対象にCT(コンピュータ断層撮影)によって得られた内臓脂肪面積

も、まずは「この基準」を使って特定健診を行い、保健指導することが大切ではないだろうか。

過剰な栄養、運動不足などの生活様式、高齢社会を背景に、生活習慣病が増えていることは確かだ。特定健診を「義務」などと考えると、健康づくりや病気予防

のためには上手に利用することが望ましい。もし、メタボリック症候群やその予備群とされたならば、ライフスタイルを改善するように心がけたい。薬剤を使わず、あるいは薬の量を減らすことによって健康になる方法であり、医療費の抑制にも結びつく

北里大一般教育部教授(日本医療社会史)

新村 拓さん(61)



あなたの生活習慣が悪いかから病気になるのです。自分の健康は自分で守りましょうというものが、生活習慣病という「名前」が意味するところだ。特定健診はその延長線上にあり、健康の増進を国民の責務とした「健康増

進法」、「健康日本21」などの流れの一環と言える。自己管理とは、強い者の論理、発想だ。病気や障害を抱えている人たちの差別化や排除にもつながりかねない。確かに病気の原因の一部は自己責任だろう。だが、個人の努力だけではどうにもならないことも多い。むしろ生活環境や労働環境などの社会システムの影響が、大きなウェートを占めて

いる。そうした視点を、もっと大切にすべきだ。健康基準は主観的、相対的であり、輪郭はあいまいだ。一律に決められるものではなく、「正常域」という数値によって、体形を標準化、規格化することは問題がある。健康の歴史を見ても、国の政策目標の下に健康基準がつくられてきた。典型的なケースは、戦前の徴兵検査の合格基準だ。特定健診の目的は医療費削減なのだろうが、「人間の等級化」につながりかねない。

体形の「標準化」には問題

今、厚生労働省がすべきことは、さまざまな健康食品や健康法などの有効性の有無を検証して、きちんと公表することだろう。異常なほどの健康志向に、正面から対応してほしい。

健康の押しつけ 懸念

メタボリック症候群の「腹囲の指標」は分かりやすく、大ざっぱに健康を把握するには、簡単で便利な新機軸だ。

だが、それを特定健診の中核に据え、ペナルティーを科して義務づけることに論議があるのもうなずける。同一人物の腹囲を測っても、数値にはかなりのばらつきが出ることも指摘されている。

健康を個人の責任に帰す流れが、より強まるだろう。実際に健診を担う保険者の負担は大丈夫なのだろうか。健康産業にとっては、「ありがたい政策」だろうが、国民にとって息苦しい健康の押しつけになる懸念も捨て切れない。

健康が未病の発見につながることは確かだ。だが、導入される特定健診は、多くの人に、病人・病人予備群のレッテルを張る恐れも秘めている。

(編集委員・飯島裕一)